思考について思考するという新しい視点:「マインドスポンジ理論」の書評

Tam-Tri Le (*), Ruining Jin (**)

(*) フェニカー大学、ハノイ、ベトナム、https://orcid.org/0000-0003-3384-4827

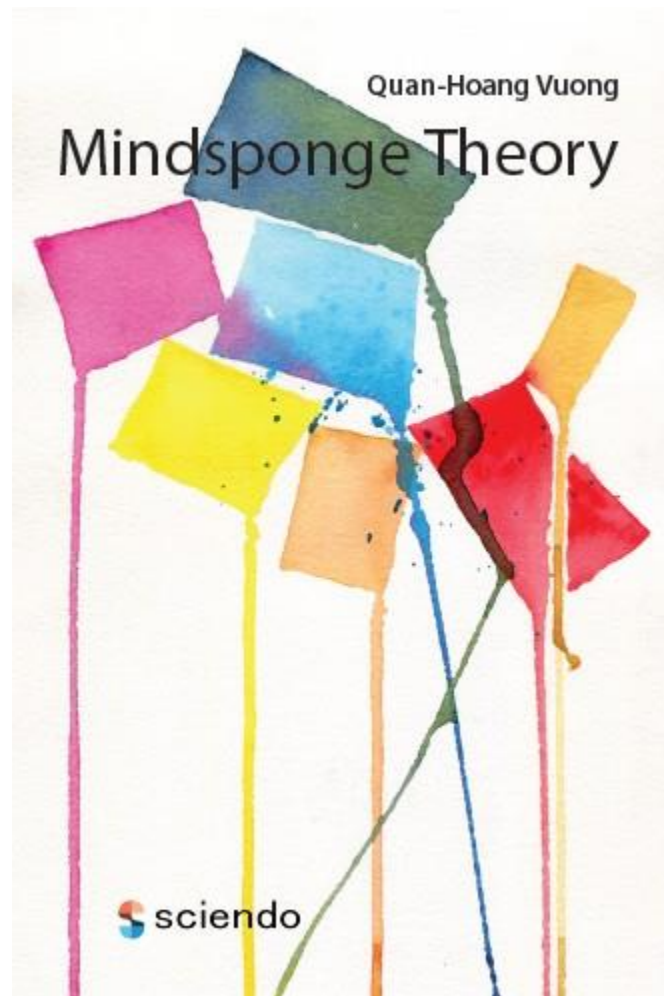
(**) 中国政法大学、北京、中国、https://orcid.org/0000-0002-8542-7614

2022 年 12 月 23 日

オリジナル英語版：https://mindsponge.info/posts/129

思考は自然に使用されているツールであるため、ほとんどの場合、当然のことと考えられる。 ごくまれに、このツールを使用し、思考自身の性質とメカニズムについて「何を」、「どのように」、「なぜ」という質問をする。「知性はどこから来たのか」、「意識とは正確には何なのか」、「なぜ私は質問をするのか」など、そのような根本的なことを考える。「マインドスポンジ理論」（Mindsponge Theory）という本は、読者が自分のマインドに深く入り、これらの妙な問題の答えを見つける招待である。刀はそれ自体を切ることはできないが、どのように世界と相互作用するかの証拠は調査可能。この本では、自然な好奇心と厳密な科学的方法により、読者は最も基本的な人間の力である「思考」の探求者になる。

「マインドスポンジ理論」という本は、生物圏のすべての「マインド」（システム）が「環境」（他の外部システム）と相互作用するために使用する情報処理メカニズムについての新しい体系的なフレームワークを提示している [1]。「マインドスポンジ」という用語は、スポンジのようにマインドが不適切な価値を絞り出し、コアバリュー（基本的価値観）と適合性のある新しい価値を吸収する比喩である。当初、このフレームワークは、グローバルな考え方と文化変容プロセスを研究するために開発された [2]。さらなる概念の発展と適用範囲の拡大により、マインドスポンジは様々な心理社会的研究において効果的な理論的基盤になった。特に、マインドスポンジ理論は 3 冊の本に使用された：自爆攻撃の心理宗教的メカニズムの調査 [3]、創造的思考におけるセレンディピ

ティの情報処理メカニズム [4]、およびベイジアン・マインドスポンジ・フレームワーク（BMF）という人文社会科学の研究方法 [5]。情報システムの更新性のように、マインドスポンジ理論も発展され続けている。したがって、「マインドスポンジ理論」の本は、以前のマインドスポンジ出版物のよりアップグレード版であるだけでなく、思考科学の新鮮な風である。

写真：「マインドスポンジ理論」のフロントカバー (ISBN 978-83-67405-14-0; De Gruyter, Imprint: Sciendo; 2023 年 2 月; https://www.amazon.de/dp/8367405145)

自然科学、特に進化生物学と神経科学からの証拠を使用し、情報処理の理論的基盤が確立され、一貫して強化された：基本的な生化学反応から遺伝物質まで、本能から複雑な認識まで。システムが情報圏（環境）に適応するパターンは、空間と時間のさまざまな範囲で観察可能：例えば、細胞の協力、乳児から成人までの脳の発達、人間社会とその

歴史、地球の生物圏進化史。人間の思考メカニズムは、客観的な宇宙の原則と同様に自然であり、それが偉大な思考（科学的発見、芸術、哲学、知恵など）をさらに貴重なものにする。

情報収集兼処理システムとして、マインドは周辺環境で利用可能な情報をフィルタリングすることによって成長する。この機能は様々な表現のレベルがある：基本的なシステム（例えば、ペトリ皿の中のアメーバ）と複雑なシステム（例えば、人間の神経可塑性 [6]、アイデンティティシフト [7]、または極端な行動の観念 [3]）。すべてのフィルタリング プロセスは、費用便益判断 [1,5] を使用し、その主観性と客観性のレベルは、システムに関する観察者の相対的視点によって決定される [8]。受け入れられた価値（情報）は、将来のプロセスの入力になる。システムは、絶えず変化する環境に適応するために自身を更新し続ける。この動的なプロセスは、生物システムの「慣性」という特徴である。人間にとって、それは単なる生物学的存在の延長を超え、レガシー（遺産）のことである。この本は明らかに、それぞれの状況でマインドがどのように機能するかについて詳細を提供することはできないが、人間の欲望と目的に関する重要な質問を読者のマインドに提示する。

この本の内容と本質は非常に概念的で哲学的である。しかし、実際の研究における理論の高い適用性は、BMF [5]を使用した 3 つのマインドスポンジに基づく定量分析で実証された。マインドスポンジ理論は若手研究者（ECR）に役立つ。特に発展途上国では、ECR は研究を実施するためのリソースと専門的な経験が限られており、「出版か死か」（publish or perish）の学術文化における彼らの闘争をさらに悪化させている [9-12]。学際的な研究が現在の学界の傾向であり、マインドスポンジ理論の柔軟性により、ECR は幅広いトピックとアプローチを追求できる [13,14]。

さらに、マインドスポンジ理論の力で、ECR は学際的な研究（特に自然科学と社会科学の両方を含む研究）実施するスキルと自信を得ることができる。BMF は実証研究のためのマインドスポンジに基づく研究方法である [5]。「マインドスポンジ言語」では、研究が認識範囲を拡大し、マインドの緩衝地帯を強化し、システムの情報処理能力をアップグレードすることである。

好奇心と創造性により、人間のマインドはそのシステムの素晴らしい思考メカニズムを最大限に活用すべきであろう。著者が述べたように、「人間の脳の高い処理能力により、複数の表現層を生成することができ、したがって、新しい精神世界をシミュレートし、その上でさらなる情報処理を行うことができる」。

References

[1] Vuong QH. (2023). *Mindsponge Theory*. De Gruyter. https://www.amazon.de/dp/8367405145

[2] Vuong QH, Napier NK. (2015). Acculturation and global mindsponge: An emerging market perspective. *International Journal of Intercultural Relations*, 49, 354–367.

[3] Vuong QH, Nguyen MH, Le TT. (2021). *A Mindsponge-Based Investigation into the Psycho-Religious Mechanism Behind Suicide Attacks*. De Gruyter.

[4] Vuong QH. (Ed.). (2022). *A New Theory of Serendipity: Nature, Emergence and Mechanism*. De Gruyter.

[5] Vuong QH, La VP, Nguyen MH. (Eds.). (2022). *The mindsponge and BMF analytics for innovative thinking in social sciences and humanities*. De Gruyter.

[6] Eagleman D. (2015). *The Brain: The Story of You*. Canongate Books.

[7] Jin R, Wang X. (2022). "Somewhere I belong?" A study on transnational identity shifts caused by "double stigmatization" among Chinese international student returnees during COVID-19 through the lens of mindsponge mechanism. *Frontiers in Psychology*, 13, 1018843.

[8] Lahav N, Neemeh ZA. (2022). A Relativistic Theory of Consciousness. *Frontiers in Psychology*, 12, 704270.

[9] Vuong QH. (2018). The (ir)rational consideration of the cost of science in transition economies. *Nature Human Behaviour*, 2(1), 5.

[10] Nobes A. (2016). AuthorAID – supporting early career researchers in developing countries. *The Biochemist*, 38(5), 39–41.

[11] Andrews E. (2020). Supporting early career researchers: Insights from interdisciplinary marine scientists. ICES Journal of Marine Science. https://doi.org/10.1093/icesjms/fsz247

[12] Horta H, Li H. (2022). Nothing but publishing: The overriding goal of PhD students in mainland China, Hong Kong, and Macau. *Studies in Higher Education*, 1–20.

[13] Lyall C, Meagher LR. (2012). A masterclass in interdisciplinarity: Research into practice in

training the next generation of interdisciplinary researchers. *Futures*, 44(6), 608–617.

[14] Nguyen MH, et al. (2022). Mindsponge-Based Reasoning of Households' Financial Resilience during the COVID-19 Crisis. *Journal of Risk and Financial Management*, 15(11), 542.